
4 0 0 2. 出港前報告訂正

業務コード	業務名
CMR	出港前報告訂正

1. 業務概要

出港前報告した情報に対するB/L^{*1}の追加、訂正及び削除を行う。

(1) 追加の場合

「出港日時報告 (ATD)」業務が行われた出港前報告情報に対してB/Lの追加を行う。

また、船舶情報^{*2}の訂正に伴う再報告^{*3}も行うことができる。

報告された情報は、一定期間経過後、システムから削除される。

(2) 訂正及び削除の場合

登録されている出港前報告情報に対するB/Lの訂正及び削除を行う。

なお、船舶情報及びB/L番号は訂正不可である。

ATD業務が行われている場合は、「積荷目録提出 (DMF)」業務が行われるまでの間、実施可能となる。

また、ATD業務に先行してDMF業務が行われている場合は、ATD業務が行われるまでの間、実施可能となる。

なお、「出港前報告事前通知 (CDN01)」業務によりB/Lにリスク分析結果事前通知^{*4}が登録されている場合は、ATD業務及びDMF業務が行われている場合でも実施可能となる。

(^{*}1) B/Lの種類は以下のとおりとする。

①「オーシャン (マスター) B/L」

「出港前報告 (AMR)」業務または本業務 (以下、「本業務等」という。) で登録されるB/L。

②「ハウスB/L」

「出港前報告 (ハウスB/L) (AHR)」業務または「出港前報告訂正 (ハウスB/L) (CHR)」業務 (以下、「AHR業務等」という。) でハウスB/Lとして登録されるB/L。

③「マスターB/L」

オーシャン (マスター) B/Lのうち、ハウスB/Lと関連付けされているB/L、またはマスターB/L識別に「M」を入力したB/L。

(^{*}2) 船舶情報とは、以下の5項目を指す (以下、同様)。

①船舶コード

②航海番号

③船会社コード

④船積港コード

⑤船積港枝番

(^{*}3) 既に本業務等で登録済みのB/Lに対して船舶情報のいずれかに訂正があった場合は、以下の通り再報告を行う必要がある。

なお、AHR業務等で登録されたマスターB/Lの場合で、本業務等が行われていない場合は、船舶情報の訂正に伴う再報告^{*3}にはあたらない。

・訂正後の船舶情報に対してATD業務が行われていない場合は、AMR業務または「出港前報告船舶情報訂正 (CMV)」による再報告。

・訂正後の船舶情報に対してATD業務が行われている場合は、本業務またはCMV業務による再報告。

(^{*}4) リスク分析結果の事前通知とは、以下の4つのコードの通知を指す。

①HLD

②DNL

③DNU

④SPD

2. 入力者

船会社、船舶代理店

3. 制限事項

- ① 1 B／Lで指定可能なコンテナ番号は最大200件とする。
- ② 1 業務で入力可能なコンテナ番号は最大200件とする。
- ③ 船舶情報に対して登録可能なオーシャン（マスター）B／L件数は最大9999件とする。
- ④ 1 B／Lで訂正可能な回数は999回とする。

4. 入力条件

（1）入力者チェック

- ① システムに登録されている利用者であること。
- ② 入力者が船会社の場合は、入力された船会社コードに対する利用者であること。
- ③ 入力者が船舶代理店の場合は、以下のいずれかの条件を満たすこと。
 - ・ 入力された船卸港が日本の港でない。
 - ・ 入力された船卸港が日本の港である場合は、入力された船卸港において本船利用船会社との受委託関係がシステムに登録されている。
 - ・ 出港前報告情報DBに登録されている船卸港が日本の港でない。
ただし、船舶情報の訂正に伴う再報告^{*3}の場合は除く。
 - ・ 出港前報告情報DBに登録されている船卸港が日本の港である場合は、登録されている船卸港において本船利用船会社との受委託関係がシステムに登録されている。
ただし、船舶情報の訂正に伴う再報告^{*3}の場合は除く。

（2）入力項目チェック

（A）単項目チェック

「入力項目表」及び「オンライン業務共通設計書」参照。

（B）項目間関連チェック

「入力項目表」及び「オンライン業務共通設計書」参照。

（3）船舶DBチェック

追加または訂正の場合で、積載船名及び船舶国籍コードを入力しない場合は、入力された船舶コードに対して「船舶基本情報登録（VBX）」業務または「船舶基本情報等事前登録（WBX）」業務が行われていること。

（4）出港前報告情報DBチェック

（A）追加の場合

入力されたB／Lが登録されている場合は、以下のチェックを行う。

- ① ハウスB／Lでないこと。
- ② 既に本業務等で登録済みのオーシャン（マスター）B／Lである場合は、以下の4点を満たすこと。
 - ・ 仕出港コードが訂正されていないこと。
 - ・ 船舶情報のいずれかが訂正されていること。
 - ・ 船卸許可申請中でないこと。
 - ・ 「出港前報告B／L関連付け（BL L）」業務により変更前B／Lまたは変更後B／Lである旨が登録されていないこと。

(B) 訂正の場合

入力されたB/Lに対して以下のチェックを行う。

- ①ハウスB/Lでないこと。
- ②入力された船舶情報とB/Lに登録されている船舶情報がすべて同一であること。
- ③入力された通知先コードが入力されたB/Lに対してAMR業務等を行った利用者と異なること。
- ④B/L業務により変更前B/Lである旨が登録されていないこと。ただし、同時に変更後B/Lである旨が登録されている場合を除く。
- ⑤B/L業務により変更後B/Lである旨が登録されている場合は、マスターB/L識別が訂正されていないこと。

(C) 削除の場合

入力されたB/Lに対して以下のチェックを行う。

- ①ハウスB/Lでないこと。
- ②入力された船舶情報とB/Lに登録されている船舶情報がすべて同一であること。
- ③船卸許可申請中でないこと。
- ④船卸許可されていないこと。
- ⑤B/L業務により変更前B/Lまたは変更後B/Lである旨が登録されていないこと。

(5) 出港前報告管理DBチェック

(A) 追加の場合

入力された船舶情報に対してA/T/D業務が行われていること。

(B) 共通

処理対象の船舶情報に対してA/T/D業務またはCMV業務による内部処理中でないこと。

(6) 貨物情報DBチェック

入力されたB/Lが貨物情報DBに登録されている場合は、入力されたB/Lに対して以下のチェックを行う。

(A) 追加の場合

B/L業務により変更後B/Lである旨が登録されていないこと。

(B) 訂正または削除の場合

A/T/D業務が行われている場合は、DMF業務が行われていないこと。ただし、リスク分析結果の事前通知が登録されている場合を除く。

5. 処理内容

(1) 入力チェック処理

前述の入力条件に合致するかチェックし、合致した場合は正常終了とし、処理結果コードに「00000-00000-00000」を設定の上、以降の処理を行う。

合致しなかった場合はエラーとし、処理結果コードに「00000-00000-00000」以外のコードを設定の上、処理結果通知の出力を行う。（エラー内容については「処理結果コード一覧」を参照。）

(2) 重量比較判定処理

「マスターB/Lに登録されている総重量」と「関連付けられているハウスB/Lの総重量の総計」を比較判定する。

(3) マスターB/LとハウスB/Lのマッチング判定処理

入力された船舶情報に対してA T D業務が行われている場合は、入力されたB/Lに対して本業務等とA H R業務等の実施状況の判定を以下の通り行う。

また、A H R業務等の実施状況については、マスターB/L単位にハウスB/Lの出港前報告が完了した旨（以下、「ハウスB/L報告完了」という。）の判定も行う。

項番	本業務等実施状況	A H R業務等実施状況* ⁵	ワーニング対象判定
1	未済	済 (ハウスB/L報告完了未済)	対象
2	未済	済 (ハウスB/L報告完了済)	対象
3	済	未済	対象
4	済	済 (ハウスB/L報告完了未済)	対象
5	済	済 (ハウスB/L報告完了済)	対象外

(* 5) 判定対象のマスターB/Lに対してA H R業務等実施未済の場合でも、B L L業務に関連してハウスB/L未登録でないと判定されている場合は、A H R業務等実施済と判定する。

(4) 出港前報告情報不一致判定処理

(A) 出港前報告情報処理

(a) 報告期限超過判定

報告期限までに「出港前報告」が行われていることを判定する。

(b) ハウスB/L未登録判定

マスターB/Lに対してハウスB/Lが関連付けられていることを判定する。

(c) マスターB/L未登録判定

マスターB/Lに対して「出港前報告」が行われていることを判定する。

(d) 船舶情報不一致判定

マスターB/LとハウスB/Lの船舶情報が同一であることを判定する。

(B) 貨物情報処理

入力されたB/Lが「貨物情報DB」に存在する場合は、当該B/Lに対して以下の判定を行う。

(a) 出港前報告未済判定

本業務等により「出港前報告」が行われていることを判定する。

(b) 出港日時報告未済判定

A T D業務により「出港日時報告」が行われていることを判定する。

○：判定対象

処理区分 チェック項目	追加	訂正	削除
報告期限超過判定	○* ⁶		○* ⁶
ハウスB/L未登録判定	○	○	○
マスターB/L未登録判定	○		○
船舶情報不一致判定	○		○
出港前報告未済判定	○		○
出港日時報告未済判定	○		○

(* 6) 入力されたマスターB/Lに関連付けられているハウスB/Lに対してマスターB/Lの船舶情報に準ずる旨が登録されている場合は、当該ハウスB/Lについても判定対象となる。

(5) 出港前報告情報DB処理

(A) 入力されたオーシャン（マスター）B/Lに対する処理

(a) 追加の場合

- ①入力された情報を登録する。
- ②重量比較判定処理、マスターB/LとハウスB/Lのマッチング判定処理及び出港前報告情報不一致判定処理（報告期限超過判定、ハウスB/L未登録判定、マスターB/L未登録判定、船舶情報不一致判定）の結果を登録する。
- ③入力された船舶情報に対する出港日時（A T D業務で入力された日時）及び日本時間に換算された出港日時を登録する。
- ④以下の条件をすべて満たす場合は、貨物情報DBに登録されているリスク分析結果の事前通知を引き継ぐ。
 - ・船舶情報の訂正に伴う再報告*³でない。
 - ・入力されたB/Lが貨物情報DBに登録されている。
 - ・貨物情報DBにリスク分析結果の事前通知が登録されている。

(b) 訂正の場合

- ①入力された情報を上書き登録する。
- ②重量比較判定処理、マスターB/LとハウスB/Lのマッチング判定処理及び出港前報告情報不一致判定処理（ハウスB/L未登録判定）の結果を登録する。

(c) 削除の場合

- ①マスターB/Lの場合は、重量比較判定処理の結果を取り消す。
- ②マスターB/LとハウスB/Lのマッチング判定処理及び出港前報告情報不一致判定処理（マスターB/L未登録判定、船舶情報不一致判定）の結果を登録する。
- ③オーシャン（マスター）B/Lの場合で、ハウスB/Lが関連付けされている場合は、出港前報告がされた旨を取り消す。
- ④オーシャン（マスター）B/Lの場合で、ハウスB/Lが関連付けされている場合は、関連付けられたハウスB/Lの中で最新の船舶情報及び船卸港コードをマスターB/Lの船舶情報及び船卸港コードとして登録する。
- ⑤オーシャン（マスター）B/Lの場合で、ハウスB/Lが関連付けされていない場合は、削除対象とする旨を登録する。

(B) 入力されたマスターB/Lに関連付けられているハウスB/Lに対する処理

マスターB/Lの船舶情報に準ずる旨の登録がある場合は、以下の処理を行う。

- ①出港前報告情報不一致判定処理（報告期限超過判定）の結果を登録する。
- ②追加の場合は、入力された船舶情報に対する出港日時（A T D業務で入力された日時）及び日本時間に換算された出港日時を登録する。
- ③削除の場合は、登録されている出港日時（A T D業務で入力された日時）及び日本時間に換算した出港日時を取り消す。

(6) 出港前報告管理DB処理

- ①入力された情報および登録状況に基づき、処理対象の船舶情報に対して出港前報告されたB/L件数の加減算処理を行う。
- ②①の結果、処理対象の船舶情報に対して出港前報告されたB/L件数が0件になった場合は、削除対象とする旨を登録する。

(7) 貨物情報DB処理

以下の条件をすべて満たす場合に処理を行う。

- ①入力されたB/Lが貨物情報DBに登録されている。
- ②MFR業務で登録された貨物情報である。
- ③コンテナ詰貨物である。
- ④コンテナタイプコードが「PL」以外のコンテナが登録されている。
- ⑤仮陸揚貨物の旨が登録されている場合は、最終仕向地コードが国外港でない。
- ⑥船積港が国内港でない。
- ⑦CMF03業務が行われている場合は、船卸確認済でない。

(A) 追加の場合

- ①出港前報告情報不一致判定処理（出港前報告未済判定、出港日時報告未済判定）の結果を登録する。
- ②入力された船舶情報に対する出港日時（ATD業務で入力された日時）を登録する。

(B) 削除の場合

- ①出港前報告情報不一致判定処理（出港前報告未済判定、出港日時報告未済判定）の結果を登録する。
- ②登録されている出港日時（ATD業務で入力された日時）を取り消す。

(8) 出力情報出力処理

後述の出力情報出力処理を行う。出力項目については「出力項目表」を参照。

(9) 注意喚起メッセージ出力処理

追加または訂正の場合で、マスターB/LとハウスB/Lのマッチング判定処理においてワーニング対象と判定された場合は、注意喚起メッセージとして処理結果通知に併せて出力する。

6. 出力情報

情報名	出力条件	出力先
処理結果通知	なし	入力者
ハウスB/L報告完了 通知情報	以下の条件をすべて満たす場合 (1) 処理区分が「2」（追加）である (2) マスターB/Lの場合で、ハウスB/L 報告完了の旨が登録されている	入力者
マスターB/L報告状 況通知情報	以下の条件をすべて満たす場合 (1) 処理区分が「2」（追加）または「1」 （削除）である (2) マスターB/Lの場合で、ハウスB/L 報告完了の旨が登録されている	入力されたマスターB /Lに登録されている AHR業務等実施者
関連ハウス事前通知状 況情報	以下の条件をすべて満たす場合 (1) 処理区分が「2」（追加）である (2) 関連するハウスB/Lヘリスク分析結果 の事前通知が行われている	入力者
出港前報告不一致情報 （民間）	以下の条件をすべて満たす場合は、入力された B/Lに係る情報を出力する (1) 処理区分が「2」（追加）または「5」 （訂正）である (2) 入力された船舶情報に対してATD業務 が行われている (3) 入力されたB/Lに対する「出港前報告 情報不一致判定処理（報告期限超過判 定、ハウスB/L未登録判定、船舶情報 不一致判定）」において、出力要と判定 した	入力者
		ATD業務実施者 （税関を除く）

	以下の条件をすべて満たす場合は、入力されたマスターB／Lに関連付けられているハウスB／Lに係る情報を出力する (1) 処理区分が「2」(追加)である (2) 入力された船舶情報に対してA T D業務が行われている (3) 入力されたマスターB／Lに関連付けられているハウスB／Lに対して以下の条件をすべて満たす ・マスターB／Lの船舶情報に準ずる旨が登録されている ・B L L業務により変更前B／Lである旨が登録されていない(ただし、同時に変更後B／Lである旨が登録されている場合を除く) ・「出港前報告情報不一致判定処理(報告期限超過判定)」において、出力要と判定した	A T D業務実施者 (税関を除く)
出港前報告情報		税関
B／L削除理由通知情報	処理区分が「1」(削除)である場合	税関

7. 特記事項

(1) B／Lの出港前報告日時について

追加の場合は、本業務を行った日本時間における日時を、出港前報告日時とする。

(2) マスターB／Lに対して船舶情報の訂正に伴う再報告^{*3}を行った場合の注意点

マスターB／Lに対して船舶情報の訂正に伴う再報告^{*3}を行った場合でも、関連付けられたハウスB／Lの船舶情報は訂正されないため、ハウスB／Lに対してもA H R業務等により、船舶情報の訂正に伴う再報告^{*3}を行う必要がある。

ただし、マスターB／Lの船舶情報に準ずる旨が登録されているハウスB／Lは除く。

(3) 「積荷目録情報登録(一括)(M F I)」業務またはD M F業務におけるM F R業務の自動起動機能を利用する場合の注意点

M F I業務またはD M F業務は、本業務で登録された情報を元にM F R業務の自動起動を行う。本業務とM F R業務とではチェック内容が異なるため、M F I業務またはD M F業務を利用する場合は「入力項目表」の記載事項及び以下の点について注意が必要である。

①以下の3点を満たさない場合は、M F I業務またはD M F業務におけるM F R業務の自動起動機能の対象外として出港前報告情報D Bに登録される。

- ・コンテナオペレーション会社コードを入力していること。(ただし、M F I業務を利用する場合で、M F I業務実施時にコンテナオペレーション会社を入力する場合は処理対象となる)
- ・船卸港コードに日本の港を入力していること。
- ・コンテナ番号を入力した場合は、荷渡形態コード、バンニング形態コード及びコンテナ条約適用識別を入力していること。

②船舶コードが船舶D Bに登録されていない場合は、M F I業務またはD M F業務の実施前にV B X業務またはW B X業務で登録する必要がある。

- ③本業務では、積荷目録管理DB、貨物情報DB、コンテナ情報DB及び包括保税運送DBに対するチェックを行っていない。
- ④本業務では、MFR業務における以下の制限チェックを行っていない。
- ・ 1コンテナで指定可能なB/Lは最大100件とする。
 - ・ 1船舶コードに対して本業務を行える利用船会社数は、最大20件とする。
 - ・ 1船卸港コードに対して指定できるコンテナオペレーション会社数は、最大5件とする。
 - ・ 1船舶コードに対して登録可能なB/L及びコンテナ番号は、合計で最大9999件とする。